

2026年度兵庫県高等学校陸上競技記録会（姫路会場）競技注意事項

1 この競技会に適用する規則は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則及び大会規定である。

2 ウォーミングアップについて

- (1) ウォーミングアップは手柄山中央公園を使用すること。ただし、占有使用ではないので一般利用者とのトラブルがないよう注意すること。全天候走路は順方向で使用し、トラックの周回及びハードル・ミニハードル・ゴムチューブ等の利用、占有して使用することを禁止する。
- (2) 競技場内でのウォーミングアップは競技開始の15分前までとする。
- (3) 棒高跳の競技が終了しマット等の撤収が完了すれば、競技場内第2コーナーから第3コーナーの8レーン外側のエリアは、競技に支障のない範囲でウォーミングアップ場として使用してもよい。審判員の指示にしたがい安全に留意して使用すること。その使用の許可はアナウンスにより連絡をする。
- (4) 両練習会場とも、メディシンボールの使用も含め、投てき練習は危険防止のため一切禁止する。（競技前に練習時間を設ける）

3 招集について

- (1) 選手招集所は第2ゲート外に設け、下表の招集時刻にしたがい点呼をおこなう。

招集時刻	トラック競技	フィールド競技
開始時刻	30分前	45分前
完了時刻	20分前	35分前

(2) 場所及び手順

[トラック競技] プログラム記載の招集時刻に第2ゲートにおいて競技者係の点呼を受ける。
(アスリートビブス、使用シューズ、腰ナンバーカード[右腰につける]とスパイクピンなどの確認)

[フィールド競技] プログラム記載の招集時刻に第2ゲートにおいて競技者係の点呼を受ける。
(アスリートビブス、使用シューズ、スパイクピンなどの確認)

- (3) 点呼の代理は認めない。ただし、2種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、あらかじめ本人が競技者係へ多種目同時出場届（プログラムの末尾に綴込み）を提出し、あわせて招集に来ることが出来ない種目の点呼（アスリートビブス・腰ナンバーカード・使用シューズなどの確認）を受けておくこと。
- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者（チーム）は、出場する意志がないものとみなし処理する。
- (5) 当該種目を欠場する者（チーム）は、あらかじめ欠場届（プログラム末尾に綴込み）を競技者係に提出すること。
- (6) 腰ナンバーカードは、各学校で用意をすること。ただし1500m、3000m、5000m、3000mSC、5000mWは、招集時に競技者係から配られる。フィニッシュ後、別ナンバー係補助員に返却すること。

4 トラック競技のレーン順、オーダー順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載のとおりとする。

5 トラック競技において棄権者多数時、可能な範囲で合併レースを実施する。その際の番組編成については競技者係に掲示し、併せてHPにも掲載する。

- 6 競技規則に適合しているシューズであることを、招集時・競技前・競技終了後に確認することがある。自己のシューズがWAシューズリストに掲載され、かつ適合していることが証明できるもの（紙媒体に限る。WAシューズリストをプリントアウトしたもの）を携行しておくこと。
- 7 男女の5000m競歩は同時スタートとする。スタートは1列とし、男子がイン側に、女子がアウト側にプログラム記載順に整列する。
- 8 リレーのオーダー用紙は、各種目1組の招集完了時刻の2時間前から1時間前までに記録室へ提出すること（オーダー用紙は、学校受付時に配付する）。ただし、4×100mRについては7時40分から8時10分までの間に提出すること。
- 9 リレーのユニフォームについては上下とも同系色・同デザインとする。
- 10 走高跳、棒高跳以外のフィールド競技の試技数は3回とする。
- 11 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は次のとおりとする。
男子 走高跳 ــــــــ 1m80までは5cmきざみ、以降3cmきざみとする。
棒高跳 ــــــــ 3m00までは20cmきざみ、以降10cmきざみとする。
女子 走高跳 ــــــــ 1m50までは5cmきざみ、以降3cmきざみとする。
棒高跳 ــــــــ 10cmきざみとする。
走高跳・棒高跳でバーを破損した場合は、弁償すること。
- 12 やりは、検査を受けて自己のものを使用することができる。
検査場所 ــــــــ 玄関ロビー
検査時間 ــــــــ 男子 13:30 女子 13:30
- 13 競技場が全天候舗装のため9mm以下の全天候型スパイクピンの付いたシューズを使用すること。ただし走高跳・やり投は12mm以下とする。なお、姫路市陸上競技場の規定により、競技出場時のみニードルピンスパイクの使用を許可する。また、投擲シューズにおいてWA承認シューズでスパイクピンを外したとしても、サークルで使用することはサークル保護の観点より禁止する。
- 14 競技中、競技区域内に携帯電話・スマートフォン・タブレット等の機器を持ち込むことはできない。また、競技区域内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。
フィールド競技では競技場所に近接した観客席の一角にコーチ席を設ける（コーンで区画する）。動画再生機器で録画面像を見たり、選手とコミュニケーションをとる場合は、この場所でおこなうこと。走幅跳・三段跳において、動画再生機器により試技の映像を見る場合は、第4コーナーの側壁部分（コーンで区画する）のみ可とする。スタンドから身を乗り出しての手渡しや、動画再生機器に紐などをくくりつけて渡すなど、危険な行為はしないこと。
- 15 リザルトの発表は掲示せず、アナウンスによる一部発表とともに指定のWEBページに掲載する。

[\(http://seibanrikujou.g1.xrea.com/\)](http://seibanrikujou.g1.xrea.com/)



- 16 日傘を使用する場合は、観戦の妨げとならないようにすること。ただし、競技エリア内での使用は禁止する。また、スタンドおよびサブトラック内での移動しながらの使用は安全確保の観点から禁止する。

- 17 更衣室の利用は『短時間・少人数』を心がけること。